

ウグイ

Leuciscus(Tribolodon) hakunensis

コイ科



ウグイ

名前の由来

「いぐい」・「うつぐい」・「海鯉」の転じたものとか、「浮く魚」あるいは「ウが食う魚」の意などの説がある。「アカハラ」「ハヤ」「クキ」「イダ」など多くの地方名を持つ。漢字名：石斑魚

特定種

該当なし。

形態的特徴

全長30cm、海で育ったものは45cmを超えるという。うろこが比較的小さく、尻ビレの後縁がわずかに内湾する。産卵期の成魚に体側に鮮やかな朱赤色の3本の縦条の婚姻

色があらわれ、これらの3条に囲まれたところは黒帯となる。また追星（おいぼし）と呼ばれる白点が全身、特に頭部と体部背面に出る。

類似種と見分け方

マルタウグイ、エゾウグイ。

マルタウグイは、成熟魚繁殖期の黒色帯がなく、幼魚は尾ビレ基部三角形の暗色斑がある。ウグイとエゾウグイは、成熟魚繁殖期の黒色帯があり、幼魚は尾ビレ基部に三角形の暗色斑がない。

エゾウグイではとがらず丸くなっている。

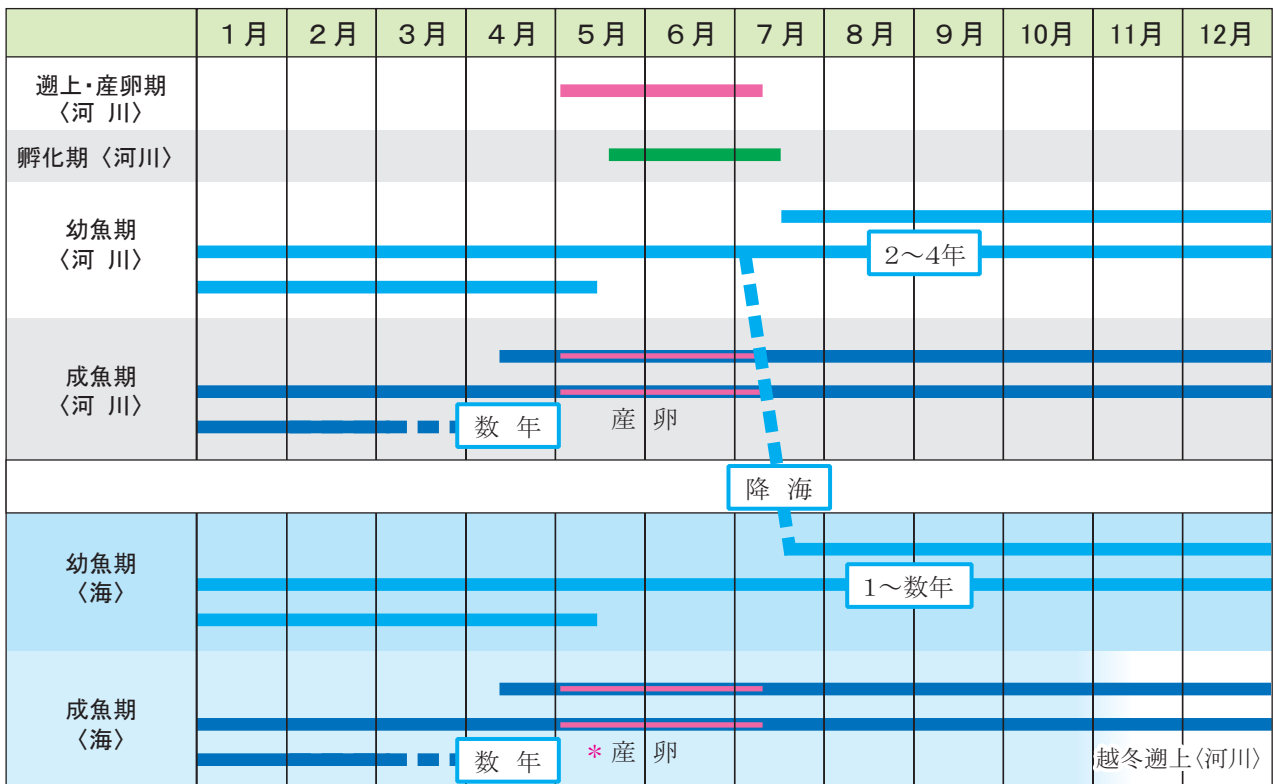
エゾウグイのメスの成魚は吻（鼻先）が上顎前端より前に突き出るが、ウグイの吻は上顎前端より前に出ない。



類似種、エゾウグイ。吻が上あご前端より前に突き出ている

また、うきぶくろの末端部がウグイでは針のようになっているのに対して、マルタウグイではとがった部分が短く、

生活サイクル



* 降海型も産卵は河川に遡上しておこなう。また冬の間川に越冬遡上する

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(葦原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

一 生

雪解け増水がおさまった頃、川を遡上し、春から初夏に産卵する。ふ化後、稚魚は流速の遅い場所で生息し、2年で10～14センチに成長する。

河川残留型は2～4年で成熟する。降海型はふ化後1年～

数年で降海し、海で生活する。1～数年で成熟し、産卵期には川に遡上して産卵する。

いずれの型も産卵後も生き続ける。寿命は10年前後。

生息環境・分布

下流・中流の淵や瀬。主として淵に生息し、瀬でも大きい石のゴロゴロしている場所ではその下に生息する。

夏は表層に、冬は深みにすむ。大型のものの越冬には、深い淵が必要である。また、稚魚期にはワンドや石の陰など流れの緩い場所にすむ。

海に下る降海型と川に残る残留型とがいる。降海型は汽水水域から、内湾や外海の沿岸部にまで見られるという。北海道などでは、降海型でも冬には川に越冬遡上をする。

食 性

雑食性。石の表面に付いた藻、水生昆虫、死骸、死骸に付いた菌類、人間が出した有機物等なんでも食べる。

繁殖生態

産卵期は4～7月、雪解け増水が終わった頃川をのぼり始め、産卵場に向かう。産卵場所は水深20～70cmの砂礫底の瀬、特に雨後の増水で洗われた浮き石状態が好まれる。

1尾のメスに多くのオスが追尾しておこなわれる。卵は砂利の裏などに付着し、淡黄色で水を吸うと約2.5～3.0mmとなる。水温15℃の時5日で、水温10℃の時13日でふ化する。

他生物との関わり

放出された卵は、まわりにいるウグイや他の魚によってかなり食べられる。また魚食性の動物の餌となると思われる。

興味深い話

■冬から産卵期にかけて美味で、唐揚げを酢につけて食べたり、味噌田楽にするという。ルイベにしたり、いろいろの上で干してダシにしたともいう。

■釣り上げた際、手でつかむと「キュッキュッ」という音を立てる。

■夏から秋、川の浅いたまりで稚魚が見かけられ、よくメダカと間違われる。北海道には自然状態でメダカは生息していない。

■産卵はウグイが早く、ついでマルタウグイ、エゾウグイの順に産卵するが、最近では河川環境の変化によって水温が変化し、同時に産卵するところもある。他の種との交雑

は少ないが、可能である。

■流れが緩やかな草が覆い被さった岸では、網で容易にすくうことができる。10月～11月に中～下流域の中小河川で大量の群が観察できる。身近な河川に普通に生息して、網や釣りで比較的捕獲しやすい魚なので、観察対象に向く。

国内では、琉球諸島を除く日本全国に分布。

北海道全域に見られ、十勝地方では、中小河川の下流から中流域において最も普通。深みに多い。



婚姻色を呈したウグイ。いわゆる「アカハラ」

は少ないが、可能である。

■学名の「hakunensis」は「hakonensis（「箱根産の」という意味）」をつぶり間違えたものだという。

■十勝地方のアイヌ語では「スプン（産卵期のアカハラ）」、「オツワッキ」などという。

あがる前）は岸際の浅い水たまりや淵の大きな石陰に生息するため、このような流れが穏やかな場所が必要。

配慮事項

流淵に生息する一方で、産卵は平瀬の浮き石となるような礫質底を必要とする。また仔魚期～稚魚期（うろこがで

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(鳥) 水辺類

(鳥) 草原・樹林類
ワシ・タカ

参考文献

「川の生物図典」奥田重俊・柴田敏隆・島谷幸広・水野信彦・矢島稔・山岸哲 監修、(財)リバーフロント整備センター編集、山海堂、1996

「検索入門 川と湖の魚①」川那部浩哉・水野信彦 保育社、1990
「川づくりのための魚類ガイド」北海道河川環境研究会、(財)北海道建設技術センター、2001

「日本動物大百科 第6巻 魚類」日高敏隆 監修、平凡社、1998

「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」川那部浩哉・水野信彦 編・監修、山と溪谷社 1989

「北海道の淡水魚」稗田一俊、北海道新聞社 1984

「図説 魚と貝の大辞典」望月賢二 監修、魚類文化研究会 編、柏書房 1997

「本別町生活文化誌 抜刷 第九編 アイヌの生活と文化」